

先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス] の概要

開設期間： 2022年7月1日 ~ 2025年6月30日

設置場所： 大分大学医学部（挾間キャンパス）内

講座責任者： 消化器・小児外科学講座

教授 猪股 雅史（併任）

主要スタッフ： 皮膚科学講座 教授 波多野 豊（併任）

先端がん毛髪医療開発講座 准教授 河野 洋平

先端がん毛髪医療開発講座 客員准教授 平塚 孝宏

抗癌剤脱毛予防剤の商品開発

大分大学・株式会社アデランス
産学連携プロジェクト研究

2013年
共同研究開始



株式会社アデランス

アデランス

総合毛髪関連事業の
リーディングカンパニー
毛髪基礎研究



国立大学法人 大分大学



OITA UNIVERSITY

都道府県がん拠点病院
がん患者への先端医療
トランスレーショナル・リサーチ

寄附講座開設までの経緯 抗がん剤脱毛予防薬開発プロジェクト

2013年11月
同時プレスリリース

2010年 新規抗酸化物質（ α リポ酸誘導体）**新用途発見**
“抗がん剤脱毛予防効果” **特許申請**

2013年 大分大学・アデランス（株）**共同研究の開始**

2014年 **特許確定**（特願2010-208621）

2018年 商品の**開発・上市**（商品名：MEDI α ）

2019年 多機関共同臨床試験による**有用性評価**を報告
（学術誌掲載：Breast Cancer Research and Treatment）

2020年 基礎研究による抗がん剤脱毛の**メカニズム**解明を報告
（学術誌掲載：Cancer Science）

2022年 **寄附講座の開設**

（毎月千円） 2013年（平成25年）11月20日 水曜日

抗がん剤治療による脱毛

大分大 予防薬開発へ



大分大学（北野正剛学長）は19日、抗がん剤治療の副作用で起きる脱毛の予防薬開発に向け、から大手のアデランス（本社：東京）と共同研究を始めるを発表した。同大医学部が抗酸化剤研究で開発した化合物が、抗がん剤投与による毛根部の炎症を抑制し、脱毛予防の効果が見込まれるという。この基礎研究を基、来年から臨床試験をスタートし、早ければ16年の実用化を目指す。

大分によると、抗がん剤の副作用で起きる脱毛は、抗がん剤が誘発する脱毛や頭皮の痛みに関するメカニズムほとんど不明とされており、治療薬もないという。女性を中心にがん患者にとって脱毛は心理的な負担が大きいだけに、予防薬の開発は期待を集めている。

共同研究を担う同大医学部の猪股雅史准教授（化粧品・小児科科学講座）は抗がん剤の副作用で起きる脱毛は、 α リポ酸誘導体や牛・豚の体内にあるシステイン誘導体、抗酸化作用を有する。誘導体は、 α リポ酸誘導体を還元したもので、大分大の研究が作用、抗がん剤投与による炎症を抑制する。

アデランスと共同研究



抗がん剤治療による副作用として、抗がん剤投与による脱毛や頭皮の痛みに関するメカニズムほとんど不明とされており、治療薬もないという。女性を中心にがん患者にとって脱毛は心理的な負担が大きいだけに、予防薬の開発は期待を集めている。



アデランス

共同研究の学術的成果

多機関共同研究による臨床有用性評価
 (学術誌掲載: Breast Cancer Research and Treatment 2019)

基礎研究による抗癌剤脱毛メカニズム解明
 (学術誌掲載: Cancer Science 2020)

Breast Cancer Research and Treatment (2019) 176:625–630
<https://doi.org/10.1007/s10549-019-05164-5>

CLINICAL TRIAL

The utility of DHL-HisZnNa, a novel antioxidant, against anticancer agent-induced alopecia in breast cancer patients: a multicenter phase II clinical trial

Noriko Sagawa¹ · Shinji Ohno^{2,3} · Takahiro Hiratsuka¹ · Naoto Kondo⁴ · Hiroji Iwata⁴ · Hiroko Bando⁵ · Tetsuji Ohyama⁶ · Mayumi Ishida² · Yohei Kono¹ · Kentaro Nakajima¹ · Shinichiro Empuku¹ · Setsuko Nishikawa⁴ · Yoshiko Irie⁷ · Masafumi Inomata¹ · Seigo Kitano⁸

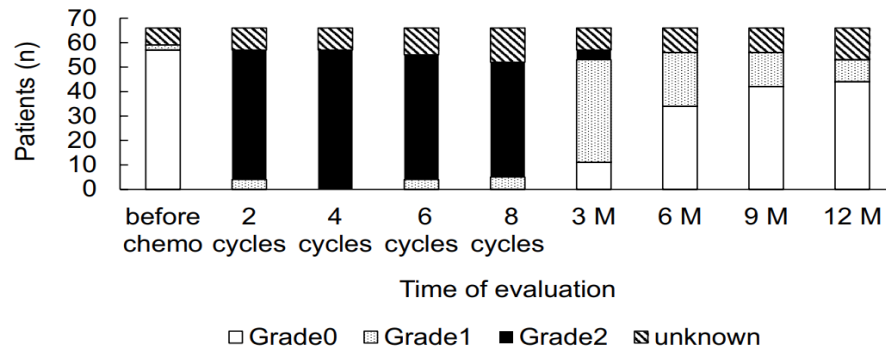
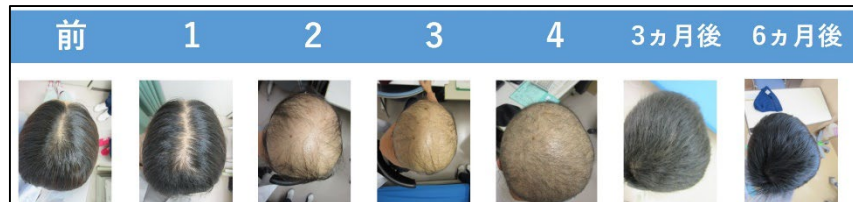
Received: 9 January 2020 | Revised: 6 March 2020 | Accepted: 14 March 2020
 DOI: 10.1111/cas.14396

ORIGINAL ARTICLE

Cancer Science WILEY

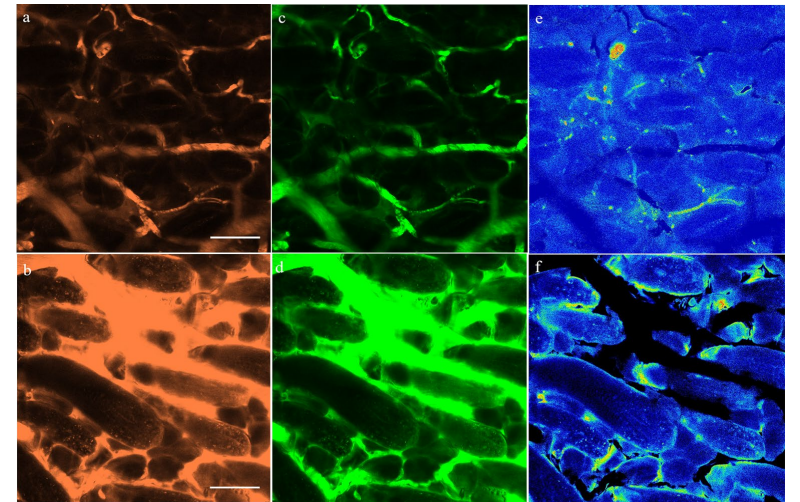
Role of increased vascular permeability in chemotherapy-induced alopecia: In vivo imaging of the hair follicular microenvironment in mice

Noriko Sagawa¹ | Yusuke Oshima^{1,2} | Takahiro Hiratsuka¹ | Yohei Kono¹ | Tsuyoshi Etoh¹ | Masafumi Inomata¹



コントロール

抗がん剤



αリポ酸誘導体の脱毛回復効果のエビデンス確立

抗癌剤による血管透過性亢進メカニズムの解明

医学研究から生まれたスカルプケアローション ヘアリプロ Medi α 開発上市

大分大学の基礎研究にて 用法特許取得

アデランス

毛髪関連事業を通じて、より多くの人々に夢と感動を



HairRepro
MEDI α

新規 α （アルファ）リポ酸誘導体を配合した
スカルプケアローション
頭皮を健やかな状態に保ちます。

がん患者のルックスケア向上に向けて

院内サロン「こもれび」



- 抗がん剤による副作用
- 脱毛
 - 皮膚障害
 - ・Hand-foot 症候群
 - ・ざ瘡様皮疹
 - ・色素沈着
 - ・爪囲炎

大分大学医学部附属病院内



寄附講座の活動

1. 抗がん剤脱毛予防剤としてのメディα **[医薬部外品承認]**
2. 各種抗がん剤患者における有効性評価 **[がん種の適応拡大]**
3. 皮膚障害や男性型脱毛症治療への応用 **[新たな用途の発掘]**
4. 新たな誘導体開発による新商品の開発 **[新薬剤/新商品開発]**
5. 海外医療ニーズに対する商品展開 **[国際展開]**